

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	4672400068
法人名	株式会社 九州保健医療
事業所名	グループホーム おおうら
訪問調査日	平成 20 年 5 月 2 日
評価確定日	平成 20 年 7 月 4 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 5月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4672400068
法人名	株式会社 九州保健医療
事業所名	グループホーム おおうら
所在地	鹿児島県南さつま市大浦町8232 (電話) 0993-58-5102

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成20年5月2日   評価確定日   平成20年7月4日

## 【情報提供票より】(20年4月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 6 日
ユニット数	2 ユニット   利用定員数計 18 人
職員数	18 人   常勤 6 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 13.5 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1階建ての1階～1階
------	-----------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	10,260 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	200 円	昼食	200 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
	または1日当たり	1,000 円		

### (4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	10 名	要介護2	6 名		
要介護3	2 名	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 89.2 歳	最低	70 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉見医院・大浦歯科
---------	-----------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは西に日本海、東に亀ヶ山を望む広大な敷地の中に建てられている。2棟の平屋づくりホームは近くの民家ともよくマッチし畑もあり山々も美しい緑いっぱい、交通の危険性もなく四方の景色を眺めつつ散策も自由である。職員は理念のとおり「心配り、目配り…」を徹底し事故のないよう、そして「ゆっくりのびのびとぬくもりに満ちた生活ができるよう支援している。「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」をよく理解し地域との関係性を重視した運営がなされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域との関係性を重視し今までの理念に「地域の方々と交流を深めながら」の一条を加え、地域密着型サービスの理念としている。利用者の金銭管理の報告についても検討し3ヶ月に1回は担当者の手書きの手紙や写真も添えて報告している。家族等からの相談苦情窓口の連絡先「ホームの担当者、市町村、国保連」も重要事項説明書に明示されている。利用者の変化や終末期のあり方について家族の意見も聞き看取り指針を作成し契約時に視明している。緊急時めかかりつけ医・家族・職員で相談し方針を統一している。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者、管理者、職員は評価のねらいや意義、活用方法についてよく理解しており自己評価は全職員が取りくみ、サービスの質の確保に活かしていこうとする姿勢が伺える。</p>
	<p>重点項目</p> <p>運営推進会議には地区長、警察官、民生委員、協力医等出席し開催している。グループホームの近況報告や参加者の質問に答え意見を聞き、サービス向上に活かしている。意見を取り入れ地域の行事に参加したり買い物に出かけたりと日常生活の改善に向けて具体的に取り組んでいる。又ショートステイについて協力医療機関の意見や地域からの要望もあり市の指導を仰ぎ運営について相談し実践している。利用者の課題解決のため、市と協働し地域密着型サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>3ヶ月に1回は担当職員が利用者の生活ぶりや体調について写真を添えて家族に報告している。又家族の面会時には職員はよく声かけし要望等を伺うよう心配りしている。第三者委員にかかりつけ医や介護支援専門員がメンバーになっており、受診時に家族が意見を言える場面もあり、その意見は職員に伝えられかかりつけ医の指導も得て事故防止等するよう運営に反映している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>盆踊り、太鼓踊り等地域の行事には利用者、職員共地域の一人として積極的に参加し住民との交流を図っている。又太鼓演奏のボランティアが来所したり、見学者や実習生の受け入れも実施しホームの行事に地域の方々にも参加してもらい事業所と地域の人々が支えあう関係が築かれている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者一人ひとりに対して「気配り、目配り、心配りの気持ちを常にもち、その人の意思を尊重したケアを心がけ地域の方々と交流を深めながら、ゆっくりのびのびとぬくもりに満ちた生活を支援します」を理念としている。又「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」をよく理解し地域との関係性を重視した独自の理念となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は朝の申し送りの時、理念を唱和し意識して日常業務に携わっている。又2ヶ月に1回の職員研修時にも理念を再認識してもらうように具体的事例を基に学習している。夜間時は利用者の転倒や事故防止のために全部屋の見通しのきく位置について気配り、目配りしている。買い物や出かけ先では住民と会話もはずみ子供たちも遊びに来て地域との交流も深めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町民体育大会、盆踊り、夏祭り、ふる里祭り、小・中学校の運動会等地域の行事に積極的に参加し、ホームの行事にも地域の方々に参加してもらい地域との交流を図っている。又、太鼓演奏のボランティアの来所や見学者や研修の受け入れも実施し地域の方々と支えあう関係が築かれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は評価のねらいや意義、活用方法について良く理解している。自己評価は全員で取り組み、サービスの質の確保に活かしていこうとする姿勢が向える。具体的には、地域密着型サービスとしての理念を掲げたこと。利用者の金銭管理の報告も検討実践し、看取りについて家族の考え方を尊重し、記録に残す等改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には地区長、警察官、民生委員、協力医等出席し開催している。参加者からの質問に答え意見を聞きサービスの向上に活かしている。意見を取り入れ地域の行事に参加したり買い物に出かけたりと日常生活上の改善に向けて具体的に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の担当者と相談事など綿密に連絡を取っている。ショートステイについて協力医療機関の意見や地域からの要望もあり、担当者の指導を仰ぎその手続きや運営について相談し、実践している。利用者の課題解決のために市の担当者と協働し地域密着型サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	3ヶ月に1回担当職員が利用者の近況について家族に報告している。食事、入浴、排泄、夜間の様子、健康状態、普段の過ごし方、職員とのふれあい等について担当者自筆の手紙に写真を添えてお届けしている。心身の状態に変化が見られた時家族にその都度連絡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、職員はよく声かけし、要望等を伺うよう細やかに気遣い、手紙で要望や意見を頂けるよう配慮している。意見箱も設置している。第三者委員がかりつけ医や介護支援専門員がメンバーになっており、受診時に家族が意見を表せる場面もあり、その意見は職員に伝えられている。かりつけ医の指導も受け、事故防止等するよう、運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ひとりの職員は三人担当し、馴染みの関係づくりができてい。やむを得ず職員が退職する場合はほかの職員が利用者のダメージを少なくするよう心配りしている。新しい職員は馴れるまでフリー勤務の形を取り、利用者とのコミュニケーションを取り、顔なじみの関係をつくる等、努力がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の意見も取り入れ年間の研修計画を作成している。2ヶ月に1回認知症について身体拘束虐待防止・心肺蘇生法・感染症等計画しOJT(新人教育)の機会が作られている。また薩摩半島グループホーム連絡協議会に参加し、事例発表や心のケア、看取り、地域との関わりについて研修し地域密着型サービスの実践を身につけるようトレーニングしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	薩摩半島グループホーム連絡協議会に参加、同業者との交流ができて情報交換やネットワークづくりができてい。電話でもお互い相談しサービス担当者会議を家族の面会時に開く等の提案もあり、日々のサービスや職員育成に役立っている。今後は他ホームと職員の交換研修を実施していく予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所前に本人、家族に見学に来てもらい入居者と共にお茶飲み等してホームの雰囲気に慣れてもらい納得いくよう対応している。又空部屋を利用してショートステイをしてもらい徐々に馴染めるよう実施し地域密着型サービスの理念が活かされている。</p>		
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々の関わりの中で場面をうまくとらえ、人生の大先輩としての尊厳を支えながら、知恵をもらっている。料理の味付けを教えてもらったり団子づくりや蕎麦打ち等、昔ながらのものを教えてもらっている。新聞社に永年働いた方には朝の新聞取りの役目をしてもらったり、利用者の得意分野を知り、その能力発揮ができるよう場面づくりをし共に支え合っている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は一人ひとりの日常会話の中から要望や意向、暮らし方の希望等を知り、気持ちに添うようになっている。買い物、納骨堂、温泉に行きたい人等あり、要望が叶うよう配慮し、実践している。又同じ地域出身同士の外出を計画したり、嗜好調査もして、台所に貼り紙して職員は食のサービス向上に役立っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族、職員、かかりつけ医の意見を聞き介護計画の見直しを行なっている。医療的なものは医師、看護師と話し合いその意見を反映させた計画としており、利用者の変化に応じて計画作成している。なお、カードックス(個人別申し送り簿)を利用し職員間でうまく計画を共有するための工夫もなされている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月に1回モニタリングを行ない介護計画の見直しを検討している。なお本人の体調や病状の変化に応じて柔軟にかつ臨機応変な対応に努めている。また更新時には家族の面会時にサービス担当者会議を開き家族の要望や意見を十分聞き介護計画に取り入れている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	常勤の看護師を配置して医療連携体制を取り、利用者に24時間健康管理がなされている。又、通院時は家族の要望に応じて受診に付き添いあるいは利用者の要望に対して留守を見に行ったりと支援している。なお、本年度より、ショートステイを開始し自宅で暮している認知症の利用者へのサービスを提供し多機能性を活かし、柔軟に対応している。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の意向を受けかかりつけ医が確保できている。2週間に1回往診もあり、食事、運動、余暇の過ごし方、役割等日常生活の意見ももらい、利用者の健康管理に活かしている。通院介助を行なった時、あるいは家族が通院介助した時等双方情報を共有し家族、かかりつけ医とも関係を密にしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について家族の意見も聞き看取り指針を作成し契約時に説明している。なお職員間、かかりつけ医とも話し合いを持ち、全員で方針を共有している。又、緊急時も家族、かかりつけ医と相談し看護師を中心に情報を共有し合い関係者全体の統一を図っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者のプライバシーの保護や個人情報の取り扱いについては全員誓約書も書き常々注意するよう心掛けている。利用者一人ひとりの尊厳を守ることの大切さをよく理解している。入浴、排泄の介助の時、個々に適して対応をとり、プライバシー保護の徹底がなされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が主体となって生活ができるよう日々の中で職員は一人ひとりのペースに合わせて支援している。起床、就寝も決まりなく利用者のペースに合わせて又、入浴は毎日でもよろしく希望どおりとし毎日の衣服の選択等は利用者自身で決めてもらっている。体調に配慮しながら、買い物や散歩にも出かけるよう声かけし、希望に添って柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の力量や体調に配慮しながら職員と共に食事の準備、配膳、後片付け等をしている。又、食べたい物の要望を聞き食事が楽しい場面になるよう心掛けている。焼酎の好きな利用者にはかかりつけ医と相談しながら行事等の時に出している。職員は同じテーブルで食事を取り楽しく会話しながら利用者との関係づくりもなされ意義ある時間が過ごせるよう支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日利用でき、その日の体調と一人ひとりの意向に添って支援している。入浴したがない利用者には、職員が声かけし体調を判断しタイミングよく誘い無理強いせず、くつろいだ気分で入浴するように支援している。なお羞恥心や恐怖心等もたらないよう、職員も理解して入浴支援がなされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの力量や要望に合わせ、花の手入れや水やり、食事の準備、後片付け、朝の新聞取り等役割や楽しみ事等気晴らしへの支援がなされている。今後は地域の方々や中学生にも声かけし将棋や囲碁等取り入れ楽しみへの支援も増やしていく予定である。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に買い物に出かけたり、笠沙方面や海浜公園、近くの亀ヶ丘にドライブに出かけている。又、町内会のイベントやお祭りに参加し墓参りにも家族或いは職員と共に出かけている。季節によっては花見に出かけ、地域の小学校、幼稚園の運動会を参観し屋内だけで過ごさぬよう配慮されている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上玄関は施錠するが昼間は玄関、居室の窓等は鍵をしていない。職員は外出傾向の利用者をよく分かっており常にチェックしている。見守り目配りを徹底し出て行かれるときはいち早く対応し一緒に出かけて畑等を散歩し安全確保に配慮している。なお玄関のドアに良い音色の鈴を付けドアの開閉が分かるように鍵をかけないための一助としている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回利用者も参加して夜間を想定した避難訓練を実施している。地域の消防団に協力を呼びかけている。緊急時対応マニュアルも作成し職員に周知徹底し災害時対策について理解認識を深めている。なお、台風災害襲来時期には飲料水の確保もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1200～1400kcalは摂れるよう献立をしている。水分は1200～1300ccは経口摂取できるよう食事やお茶時に適宜勧めている。又、利用者一人ひとりの疾病や体調に配慮し血液検査データ、塩分、鉄分等にも気配りした献立でとしている。嚥下機能に応じてとろみをつけたり、刻み食したり個別的支援もしている。その摂取量は個別に記録している。なおBMI(肥満度)を測り体重コントロールし、メタボリックシンドロームの予防に役立て健康管理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の食堂には食卓、椅子が置かれ畳部屋にはソファがあり、テレビ、座卓もあり、利用者は好きな場所で落ち着いた雰囲気と思い思いに過ごしている。玄関には季節の花が植えられソフトな入りやすいつくりとなっている。広い庭と周りの山々の緑、小鳥の囀りや心地よい風が居室を取り巻き利用者の五感を刺激している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時或いは面会時、家族とも相談し今までの使い慣れた馴染みの仏壇や座椅子、小箆笥、テレビ等持ち込み、その人らしく暮せるよう居心地良い居室づくりがなされ、不安やダメージを最小限にするよう配慮されている。		